

飯豊山へ

2017.9/4～6

安曇野市のDさんの日本百名山96座目の飯豊山に3人で登ってきました。天候不順で延び延びになり、同行者も登山コースも二転三転するオマケつきでしたが。

9/4 (月、晴れ) 自宅 4:00～安曇野 I C 4:30～西会津 I C 経由で 9:40

小白布沢登山口 P 9:55～登山口 10:15～11:35 秀好清水入り口～

12:50 横峯小屋跡～15:25 剣ヶ峰水場降り口～15:32 三国岳避難小屋

(泊、小屋番不在、2000円、宿泊者10名)

9/5 (火、晴れ) 6:00～8:00 切合小屋 8:25～10:30 水場入り口

10:40～10:50 本山小屋～11:10 飯豊山 (2105M、昼) 11:40～12:00

本山小屋～13:40 切合小屋 14:00～15:45 三国岳避難小屋 (泊、宿泊者6名)

9/6 (水、霧雨のち曇り) 6:10～7:30 峰秀水 7:35～8:10 横峯小屋跡

～登山口 9:10～9:30 大規模林道 9:50～10:03 いいでの湯 (入浴・

昼食) 12:05～12:25 西会津 I C～17:10 帰宅。

心配した小白布沢登山口近くの駐車場所もすぐ分り、すでに3台駐車してあったが余裕で駐車できた。大規模林道を少し戻り一般車通行止めのゲートを越えて登る。良く踏まれたしっかりした登山道である、小さな沢を6回ほど渡

ってブナ林の中の急坂を登る。

小白布沢登山口



ブナ林の急坂です



川入からの登山道と横峯小屋跡で合流する。冷たくて美味しい峰秀水を飲んで剣ヶ峰の岩稜地帯を越える。水場の入り口を確認して三国岳避難小屋へ到着する。

剣ヶ峰の岩場



三国岳避難小屋



1997年8月に百名山登頂の際はこの小屋は小さくて古臭い小屋だったが2階建ての立派な小屋になっている。トイレも屋内にあり快適な小屋である。

小屋番に頼んでおいた水 2L と缶ビール（計 4100 円）でユックリ休めた。

9/5、日の出を見て朝食を食べてから今日の宿泊予定の切合小屋へ向かう。

日の出



本山小屋～大日岳



飯豊連峰の最高峰の大日岳が見事である。小さなアップダウンを繰り返して水の豊富な切合小屋到着、懐かしい小屋だ。不要な物を小屋に置いて飯豊山頂目指して歩くが、最高齢 80 歳の N さんが体調不良になり途中で断念して小屋へ戻る事になる。昨夜ほとんど寝られなかったのが原因のようだ。私と今回の主役の D さんと飯豊山を目指す。飯豊山は奥が深い山だ。それでも少しずつ山が近づいて来る、人間の歩く力も偉大であると感じる。

飯豊山



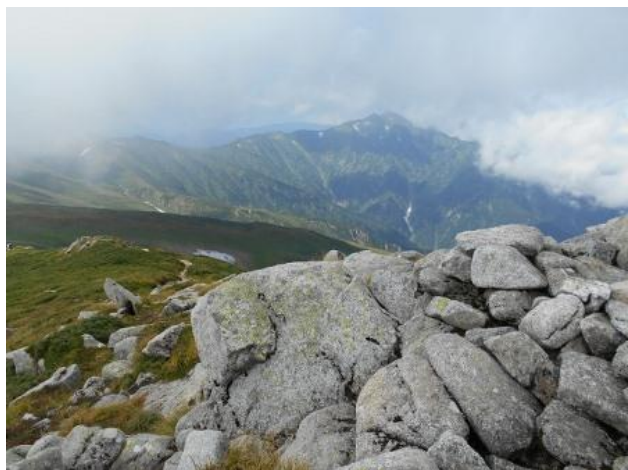
Dさん96座目達成



懐かしい水場と本山小屋（これも改築されていた）に寄って 20 年ぶりの飯
豊山頂に立った。Dさんは日本百名山 96 座目である。

飯豊連峰縦走路、北股岳方面

同感です



御西岳～烏帽子岳方面の縦走路を眺める。大日岳の山頂はガスで見えない、

大日岳



ダイレクト尾根はハッキリ見える（通行止めになっていた）、日本海方面から吹き上がるガスが大日岳方面の視界を悪くしているようだ。イイデリンドウが登山道脇に散見されたが天候のせいか花が開いていなかった。

ミヤマコゴメグサ・ウメバチソウが沢山咲いている登山道を切合小屋へ戻る。Nさんも体調が良くなったとの事、まだ時間も早いし、明日は雨予報もあるので三国小屋で泊まる事に変更する。私が2L、他の人は1Lの水を補給して三国小屋へ向かう。水は重いのでアップダウンが少し堪えたがコースタイムで小屋に着いた。9/6、10時頃までは降ってもらいたくなかったが朝から霧雨だ。雨具を着て濡れた岩場を注意して下山する。途中で雨具は脱ぐ。私は苦手な下りで膝が心配だったので「膝簡単テープ」を装着した。その効果かコースタイムより早く下山する事ができた。Nさんも登りは少し時間がかかるが、下りは私より強い感じだ。アルプス等は山小屋が立派になり、食べ物・飲み物等金を出せば何でも手に入るが飯豊連峰は10カ所位あるほとんど全ての小屋が寝具は無く、食事の提供も無い。管理人がいない時期は缶ビールすら手に入らない。水場が近くにあるのがせめてもの長所ではあるが。私はこんな飯豊連峰のような所が本来の「登山」ではとふと思った。来年もし体力的に可能なら飯豊連峰を縦走したくなった。三国小屋の金子さん、水等本当にお世話様になりました。

赤沼 健治